

搬送法

搬送法とは、応急手当を終えた傷病者を搬送したり、危険な場所にいる傷病者を安全な場所に移動させる場合の方法です。搬送中は動揺や振動を少なくし、傷病者に苦痛を与えず安全に搬送することが大切です。

いざという時に、身近にある物を使用し、周囲の人と協力して怪我人や急病人を搬送する方法を紹介します。

1 搬送の原則

- ◆ 傷病者を搬送する前に、まず必要な手当を行います。
- ◆ 傷病者に最も適した体位で搬送します（傷病者の希望する体位が原則です）。
- ◆ 動揺を極力防止する方法で安静に搬送します。
- ◆ 搬送は安全確実にを行います。



2 搬送における注意事項



搬送中も観察を継続します。



より安全、確実な搬送方法を選択し、傷病者が揺れたり動いたりしないように注意します。



搬送用資器材（担架）の使用が原則です。



搬送する人のケガにも注意します。

注意 ポイント

搬送中も傷病者の容態について観察を継続します（反応のある傷病者であれば、搬送中も励ましの声を掛けつつ様子を見ます）。

傷病者の状態、搬送する人数や搬送用資器材の有無を考慮して、より安全で、確実な搬送方法を選択します。

徒手による搬送（担架などの搬送用資器材を用いない搬送）は、傷病者にとって必ずしも楽な方法ではありません。ときには危険を伴う方法でもあります。狭い通路や階段などで搬送用資器材が活用できないときに限り、ごく近い距離の搬送に用います。

※原則として傷病者を直ちに搬送しなければならない理由がないときには、搬送用資器材が準備できるまで動かしません。

搬送する者が少ないほど負担は大きくなります。特に持ち上げるときの腰のケガに注意します。

(1) 徒手搬送

担架が使えないような場所、担架がない場合、または緊急に安全な場所へ移動させる必要がある場合に用いられます。

徒手搬送は慎重に行っても傷病者に与える負担が大きいので、必要最小限に留めましょう。

◆ 1人法**支持搬送**

意識障害がなく、片方の足に怪我をした人など、歩行困難な場合に行う搬送法です。

- ① 搬送者は、傷病者の負傷した又は不自由な足側に立つ。
- ② 傷病者の腕を、自分の首に回して、一方の手で保持する。
- ③ もう一方の手で腰の部分（ベルト等）をつかみ、軽く上部に持ち上げるようにして搬送する。

**背負い搬送**

意識障害がなく、歩行困難な傷病者を背負い、比較的長い距離を移動する場合に行う搬送方法です。

- ① 搬送者は、姿勢を低くして傷病者を背負う。
- ② 傷病者の膝下から腕をいれて抱えこみ、姿勢を安定させて立ち上がる。

**横抱き搬送**

意識障害の有無にかかわらず、歩行できない乳幼児や小柄な人を、短時間、短い距離を移動する場合に行う搬送方法です。

- ① 背中と膝の下に腕を入れ、横抱きする。
- ② 傷病者の意識がある場合には、傷病者の手を搬送者の首にまわしてもらう。
- ③ 姿勢を安定させて立ち上がる。



◆ 1 人法



★ 緊急時の搬送方法



用手による引きずり搬送

意識障害の有無にかかわらず、歩行できない傷病者を緊急時に安全な場所に移動する場合に行う搬送方法です。

- ① 脇の下から手を入れて抱きかかえるように上体を起こす。
- ② 両手で、傷病者の片方の腕の手首及び肘部分をしっかりとつかむ。
- ③ 搬送者の腰を少し吊り上げるようにして後方に引きずる。



初期消火

救出救助

搬送法

ファーストエイド



毛布等による引きずり搬送

意識障害の有無にかかわらず、歩行できない傷病者を緊急時に、毛布やシートを用いて安全な場所に移動する場合に行う搬送方法です。

- ① 毛布を置き、傷病者を毛布の上へ移動させる。
- ② 毛布で傷病者を包む。
- ③ 傷病者の頸部あたりの両側の毛布を手繰り寄せて持ち、傷病者の肩を浮かせて後方に引きずる。



◆ 2人法



抱え搬送（前後）

意識障害の有無にかかわらず、歩行できない傷病者を前後から2人で抱えて行う搬送方法です。

- ① 背中側の搬送者は、脇の下から手を入れて抱きかかえるように上体を起こし、両手で、傷病者の片方の腕の手首及び肘部分をしっかりとつかむ。
- ② 足側の搬送者は、傷病者の足首を交差させ、両手で脇に抱える。
- ③ 搬送者2人が同時に持ち上げ、足側から搬送する。



抱え搬送（左右）

意識障害がなく歩行できない傷病者を左右から2人で抱えて行う搬送方法です。

- ① 搬送者2人が一方の腕で相互に肩を組み、傷病者の背中を支える。
- ② もう一方の手は、傷病者の膝下あたりでお互いの手首を握る。
- ③ 傷病者の両腕を搬送者の肩にまわしてもらい、搬送者2人が同時に持ち上げて搬送する。



(2) 担架による搬送

担架による搬送のメリットは、傷病者を安全に、そして負担を最小限に抑えて搬送できることです。狭い通路や階段などの場所でも、適切な担架であれば搬送が可能です。



簡易担架を用いた搬送

STEP 1

運ぶ人の横に担架を広げる。
怪我や、痛みがある側に担架を広げる。
※人が多くいれば、担ぎ上げてそのまま担架に乗せてください。



STEP 2

運ぶ人の身体側の担架を半分まで折り、もう一度外側へ折り返す。
折り返した後は、担架を身体側へ寄せる。



STEP 3

肩やおしりなど、固い骨があるところを持ち、手前側に身体を傾ける。
その後に、担架を身体に引きつける。
※担架は身体につくように寄せてください。

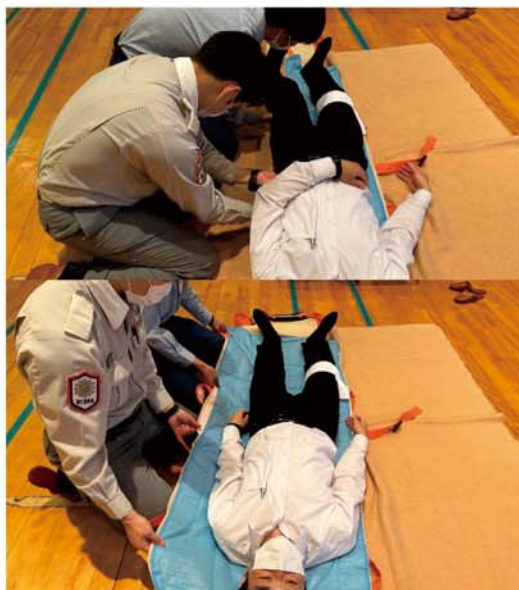


STEP 4

身体を仰向けにゆっくりと戻す。
その後、折り込んでいた側の担架を手前に引きつけ、担架の中央に身体がくるように調整する。
最後に、身体の腰あたりにあるベルトを装着する。



MOVIE



各人員による搬送方法

01

2人法での搬送

頭部側と足側の2名で搬送する方法
双方の負担も大きいことから、肩掛けひもを活用する。



02

3人法での搬送

頭部側1名と足側の2名で搬送する方法
足側の負担が大きいことから、足側を2名として搬送する。



03

3人法での搬送（階段等）

頭部側1名と足側の2名で搬送する方法
頭を高く、身体をコンパクトにたたむことで、小回りが可能な搬送方法。
足側の負担が更に大きくなるので注意。



04

4人法での搬送

頭部側2名と足側の2名で搬送する方法
負担は少なくなるが、人員が必要でスペースも必要となることから、狭隘な場所に向かない。





毛布を用いた搬送

◆ 担架がない場合に、毛布やシーツ等により担架を作成し、搬送する方法です。

STEP 1

毛布（シーツ等）を広げる。
毛布の中央に傷病者を寝かせて、毛布の端から中心に向かって固く巻く。



STEP 2

4人以上で毛布の丸めた部分（4隅）を持って、同時に持ち上げ搬送する。

ポイント

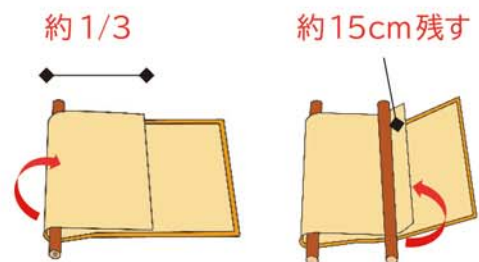
- 傷病者を持ち上げる際には、搬送者は声を掛け合ってタイミングを合わせます。
- 4人で搬送する場合は、中央付近がたわみ、傷病者に負担となる場合があることから、中央にも搬送者を配置する6人搬送が理想です。
- 毛布を、手の甲を上にして握る（順手）と滑りにくく安全です。



◆ 担架がない場合に、毛布と棒により担架を作成し、搬送する方法です。

STEP 1

毛布を広げ、毛布の約 $1/3$ の場所に棒を1本置き、もう1本の棒を、折り返した毛布の上に置く（端を15cm以上残す）。



STEP 2

残りの毛布を折り返して担架の完成
※丈夫な棒がない場合は、実施しない。



落下の危険があるため、補助者をつけること。

